

キリスト教学

概要

人間にとっての根源的な問いを、キリストが教えた価値観からとらえなおしていく。人生の意味、愛すること、信じること、ゆるすことなど人間の根源的なテーマを取り上げていく。大切なことは、自発的にこのような問いを持ち、問い続けることである。その問いに対する答えは、聖書の中に、教会の歴史の中に、また、現代社会の中に見出すことができる。キリストを模範とした人々の生き方を学び、21世紀を生きる人間として福音的価値観をどのように生きていよいかを考える。

担当教員	津田和加子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

人間の根源的な問いをキリスト教の価値観の中に見出し、理解することができる。
 様々な人々の生き方に影響を与えたイエス・キリストについて理解を深めることができる。
 自分の生き方を選択し続ける指標・福音的価値観について理解を深めることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 教会史概論1（聖パウロ、アウグスティヌス、ヨハネ・パウロ 世）
3. 教会史概論2（カトリックとプロテスタント）
4. 聖パウロの手紙に見る信仰・希望・愛
5. 祈ること
6. 愛すること
7. 自由であること
8. 信じること
9. ゆるすこと
10. ゆるされること
11. 苦難を生きること
12. 生きること死ぬこと
13. 自然とのかかわり
14. 社会とのかかわり
15. 人生の意味（使命と召命）

準備学習（予習・復習等）

プリントを事前に読んでおく。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題レポート70% リアクションペーパー30%

教科書

『新共同訳聖書旧約聖書続編つき』日本聖書協会

参考文献

D.A.ジョーンズ「カトリックへの招き」ドン・ボスコ社、小高毅「よくわかるカトリック」教文館、「カトリック教会の教え」カトリック中央協議会、ホセ・ヨンバルト「カトリックとプロテスタント どのように違うか」サンパウロ

キリスト教学

概要

担当教員	池田洋子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	食物栄養2年
時間数	90分×15回
単位数	2

イエス・キリストの弟子たちは現在に至るまで、その信仰に基づいて「教会」と呼ばれる共同体を形作っている。人々の信仰を支えている教会の教え、典礼、祈りなどは教会の歴史とともに発展してきた。二千年に及ぶキリスト教の歴史は「イエス・キリストに出会った人々」の物語ともいえる。聖パウロやマザー・テレサなどは自分の信仰をどのように表現し、どのように生きてきたのだろうか。イエス・キリストを模範とした人々の生き方を学び、21世紀を生きる人間として福音的価値観をどのように生きたらよいかを学ぶ。

目標

キリスト教教会の発展について学び、どのような意義を持つのかを理解することができる。
 さまざまな人々の生き方に影響を与えたイエス・キリストについて理解を深めることができる。
 日本の教会の独自の発展について理解を深めることができる。
 桜の聖母学院の歴史や創立者について学び、「愛と奉仕の精神」を深く理解することができる。

各回の内容

1. 祈り
2. 聖パウロの生涯
3. 聖パウロの手紙
4. 聖パウロの宣教
5. 初代教会の成立
6. 教会暦と聖母マリア
7. 教皇ヨハネ23世(教皇とは)
8. 教皇ヨハネ23世(その人生)
9. 聖マザー・テレサ(その思想)
10. 聖マザー・テレサ(その人生)
11. クリスマスの意味
12. 日本の教会の成立
13. 高山右近
14. ペトロ・カスイ岐部
15. 振り返りとまとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：授業で指示された範囲の聖書・資料などを読んでおくこと。

復習：授業で学んだ資料プリント・聖書などを整理し、レポートにまとめておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題レポート50%、リアクションペーパー30%、授業参加態度20%

教科書

『新共同訳聖書』日本聖書協会

参考文献

授業時に提示する。

キリスト教学

概要

担当教員	池田洋子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育2年
時間数	90分×15回
単位数	2

イエス・キリストの弟子たちは現在に至るまで、その信仰に基づいて「教会」と呼ばれる共同体を形作っている。人々の信仰を支えている教会の教え、典礼、祈りなどは教会の歴史とともに発展してきた。二千年に及ぶキリスト教の歴史は「イエス・キリストに出会った人々」の物語ともいえる。聖パウロやマザー・テレサなどは自分の信仰をどのように表現し、どのように生きてきたのだろうか。イエス・キリストを模範とした人々の生き方を学び、21世紀を生きる人間として福音的価値観をどのように生きたらよいかを考える。

目標

キリスト教教会の発展について学び、どのような意義を持つのかを理解することができる。
 さまざまな人々の生き方に影響を与えたイエス・キリストについて理解を深めることができる。
 日本の教会の独自の発展について理解を深めることができる。
 桜の聖母学院の歴史や創立者について学び、「愛と奉仕の精神」を深く理解することができる。

各回の内容

1. 祈り
2. 聖パウロの生涯
3. 聖パウロの手紙
4. 聖パウロの宣教
5. 初代教会の成立
6. 教会暦と聖母マリア
7. 教皇ヨハネ23世(教皇とは)
8. 教皇ヨハネ23世(その人生)
9. 聖マザー・テレサ(その思想)
10. 聖マザー・テレサ(その人生)
11. クリスマスの意味
12. 日本の教会の成立
13. 高山右近
14. ペトロ・カスイ岐部
15. 振り返りとまとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：授業で指示された範囲の聖書・資料などを読んでおくこと。

復習：授業で学んだ資料プリント・聖書などを整理し、レポートにまとめておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題レポート50% リアクションペーパー30% 授業参加態度20%

教科書

『新共同訳聖書』日本聖書協会

参考文献

授業時に提示する。

国際ボランティア

概要

国際化が進む中で人々の交流やボランティアも国際的なレベルでの活動になっている。この科目では訪問地で英語を学び、現地の人々と交流をする。また、国際的レベルでのボランティアの基本を学び、体験する機会を持つ。さらに創立者マルグリットがカナダで築いた大学などを訪問する。講義5回、そして演習としてカナダを訪問する。

担当教員	後藤真 狩野奈緒子
授業形態	講義 演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

英語を学び、訪問地でそれを実際に使う体験をすることができる。
 国際的なボランティア活動を体験することができる。
 現地で暮らす人々と交流し、多文化に触れる機会を持つことができる。
 自分にチャレンジするチャンスを持つことができる。
 桜の聖母学院のルーツを辿り、「建学の精神」について理解を深めることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション

2. 人々と「共に生きる」精神とは何かを考える

3. カナダの風土・文化・歴史について理解を深める

4. 建学の精神および創立者について理解を深める

5. カナダ研修の準備

6. 海外研修

7. 海外研修

8. 海外研修

9. 海外研修

10. 海外研修

11. 海外研修

12. 海外研修

13. 海外研修

14. 海外研修

15. 海外研修

準備学習（予習・復習等）

配布された資料プリントをよく読む。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

レポート 30% 授業参加態度 20% ボランティア遂行意欲・態度50%

教科書

なし

参考文献

授業時に提示する。

福島学

概要

福島学では、地元学としての意義を基礎に置きつつも、福島県の現状に立ち、最重要課題が地域の復興、再生であることを認識し、福島県の産業や暮らしの現状と課題について学ぶ。東日本大震災の爪痕や原子力発電所事故の現状を視察によって学び、復興のために尽力する人々との出会いによって、学生自らが気づきや感動を得て、主体的なかわりを創造していく。

担当教員	三瓶・木下・山下ほか
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	1、2年
時間数	90分×15回相当
単位数	2

目標

学生自らが、主体的に「復興」を考えるとともに、学生の力で地域に貢献し、地域の復興を支援する。被災地を視察することで当事者性が育ち、学生自身の将来と福島県をはじめとする東北の復興を自らの課題にできる。その意識が社会人基礎力を育て、主体的に生きる力がつく。

各回の内容

1.	4月20日	5限目	イントロダクション	なぜ「福島学」を学ぶのか / 諸先生からのメッセージ
2.	5月11日	5限目	福島のおもてなしの安全性について	～安全性の見える化～
3.	6月29日	5限目	南相馬市の現状について	(南相馬市職員からの解説)
4.	7月14日	丸1日	フィールドワーク	南相馬市の視察
5.	7月14日	丸1日	フィールドワーク	南相馬市の視察
6.	7月14日	丸1日	フィールドワーク	南相馬市の視察
7.	7月27日	5限目	視察で得たこと	のシェアと私たちができることのディスカッション
8.	8月3日	5限目	福島県で新たな道を開く	若手農家の話
9.	8月20日または22日	フィールドワーク	「ななくさ農園」	または「Berry's Garden」の視察
10.	8月20日または22日	フィールドワーク	「ななくさ農園」	または「Berry's Garden」の視察
11.	8月20日または22日	フィールドワーク	「ななくさ農園」	または「Berry's Garden」の視察
12.	10月12日	5限目	私から見える	「福島の問題」と復興ビジョン1～世界から見るフクシマ～
13.	10月26日	5限目	私から見える	「福島の問題」と復興ビジョン2
14.	12月7日	5限目	私から見える	「福島の問題」と復興ビジョン3～今までの学びを生かす～
15.	12月21日	5限目	地域を学ぶ意味	～プレゼンテーション～

準備学習（予習・復習等）

<予習>

ニュースや新聞、雑誌などの報道などを通して、福島県の現状を把握しておくこと。
また人口推移や地方創生など、現在、地方が抱える社会問題などをまとめておくこと。

<復習>

毎回その講義を受けた後に、その日にテーマになった内容についてを調べ、考察し、自らのコメントを書くこと。（次回の授業時に提出）

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業や視察における振り返りシートやレポートの記述80%

授業や視察における積極的な姿勢20%（予習・復習の姿勢、質問への積極性などを含む）

教科書

指定しない 必要な資料などは準備して配布する

参考文献

池田清彦・養老孟司『ほんとうの復興』（新潮社、2011年）

室崎益輝ほか『震災復興の論点』（新日本出版社、2011年）

関満博『東日本大震災と地域産業復興』～（新評論、2012年）

朝日新聞特別報道部編『プロメテウスの罠』1～9（学研パブリッシング、2013年）

桜の聖母短期大学『「福島学」から「移動文化祭」までの道のり～学生が編み出した復興支援プロジェクト～』（ACF福島学シリーズ6）（アカデ

ミア・コンソーシアムふくしま、2013年）

開沼博『はじめての福島学』（イースト・プレス、2015年）

川口マーン恵美『復興の日本人論 誰も書かなかった福島』（グッドブックス、2017年）

国際平和論

概要

集中講義と沖縄研修によって学びを深める科目である。集中授業では、20世紀の戦争の歴史を学び、そのなかからグループごとにテーマを決めて研究発表をする。また、沖縄戦の実相を学び、沖縄の基地問題についても理解を深める。それらの学びをふまえて、3泊4日の沖縄研修に参加する。「国際平和論」は沖縄研修参加が履修条件となる。

担当教員	山野実、元井貴子
授業形態	講義
学期	後期集中
必修・選択の別	選択
対象学生	1、2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

世界には紛争や対立によって、欠乏と貧困にあえぐ人々がいることを知り、世界平和について考えることができる。人類の戦争の歴史を振り返り、国際平和の実現のためにどのような取り組みがなされたいのか、何が壁になっているのかについて理解することができる。そのうえで、平和のためにできることを各自考察することができる。とくに、沖縄研修によって知る地上戦の悲惨さや米軍基地問題は、平和への思いを具体化し、平和を希求する心を育てることができる。

各回の内容

1. ヒトはなぜ戦争をするのか
2. 戦争の実相、紛争の現状
3. 平和論
4. テーマ学習指導
5. テーマ別研究発表
6. テーマ別研究発表
7. 沖縄研修
8. 沖縄研修
9. 沖縄研修
10. 沖縄研修
11. 沖縄研修
12. 沖縄研修
13. 沖縄研修
14. 沖縄研修
15. 研修のまとめ

準備学習（予習・復習等）

平和論、沖縄問題などに関する書籍、ニュース等に積極的に触れ、関心を高めること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

グループ別研究発表の成果60%、研修後のレポート40% による総合評価

教科書

なし 資料を配布する

参考文献

授業時に紹介する

哲学

概要

この授業では、哲学の伝統的な問題を知ると共に、日常の当たり前の物事についてあらためて考えてゆく。初めの数回は導入として、「生」や「死」あるいは「勉強」や「大人になる」といった主題について問題提起を試みる。次に、「映画」と「衣服」を題材として、私たちの日常を思想的に分析する。その後、哲学の基本的な歴史と各哲学者の思想を、私たちの日々の行動を手がかりに、学んでゆく。また、講義全体を通して、「知る」ことよりも「考える」ことを重視する。

担当教員	小原 拓磨
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1,2年合同
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

まず、哲学は難しいという固定観念が取り除かれる。哲学は基本的なことを問う学問だが、それは世界を子どもの目で見ることであると気づける。「生」や「死」ということについて、それらに答えはないということ、ゆえに考え（思考）が問題であること、そしてそれは自由であることを知る。また、「映画」や「衣服」といった日常の物事について考えてみることで、それらがこれまでとは違った仕方で見えてくる。西洋哲学の歴史における、何人かの哲学者とその哲学を知ることができる。学んだ哲学者の思想（考え方）をもとに、身の周りや自分自身のことについて、自分で考えられるようになる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 「考える」とは？
3. 「自分らしさ」とは？
4. 映画で考える（1）『となりのトトロ』と日本的感受性
5. 映画で考える（2）『もののけ姫』と自然
6. 映画で考える（3）人間、クローン、ロボット
7. 衣服の現象学（1）ひとはなぜ服を着るのか？
8. 衣服の現象学（2）化粧のコスモロジー
9. 目覚め（1）デカルト、カント
10. 目覚め（2）キリスト教、ヘーゲル
11. 通勤 ニーチェ
12. 仕事 マルクス、ヴェーバー
13. ショッピング ラカン
14. フィットネス ハイデガー
15. 睡眠、夢 ユング
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

予習：毎回配布される資料をあらかじめ読み、そこで論じられる主題について自分なりにポイントをまとめ、また、分からない点を明確にしておく。
 復習：授業に関心をもった主題、強く惹かれた主題について、紹介する参考文献を図書館等で入手し、各自でさらに探求する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

学期末に行う論述式試験（70％）と、不定期で実施するリアクションペーパー（30％）の記述内容で評価。試験の解説等は、試験の形式上各自で回答が異なるため、希望する者にかぎって個別で応じる。

教科書

なし。毎回、資料を配布。

参考文献

そのつど紹介。

心理学

概要

人間観の変遷、ヒトの感覚と知覚、社会的行動、ライフサイクル、臨床心理学とこころの健康、性格と人格、ストレスコーピングスキル、等について概説する。また、少人数によるグループワークも積極的に取り入れていく。

担当教員	後藤真
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

心理学全般についての基礎的知識を身につける。また、心理学の知見に基づき、こころの複雑な働きに対する興味・関心を培うと共に、自らの日常生活に密接した諸問題を心理学的に捉えることができる。

各回の内容

1. 導入
2. 社会の中の自己
3. 人間観の変遷と心理学の発展
4. 感覚・知覚の心理
5. 記憶のメカニズム：効果的な学習
6. 発達理論と発達段階
7. 自己概念と自尊感情
8. ライフサイクルにおける大学生期
9. ライフサイクルにおける大学生期
10. 行動心理：他者の存在とコミュニケーション
11. ストレス
12. 「癒し」と心理療法
13. ルーツとしての家族
14. ツールとしてのsystemic approach
15. 自己洞察と他者理解の心理

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業で予習すべき内容（重要語句や心理学に関連する記事等）について指示する。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じてレポートの作成および提出を求める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業レビューシート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

教科書

授業時に紹介する

参考文献

上田紀行『生きる意味』岩波新書（新赤版931）

心理学（CE）

概要

心理学は、人間を理解する基礎学問のひとつとして、「行動の科学」と位置付けられている。つまり、狭義の「心」のみが対象ではなく、人間の行動全体が、関心の対象となっている学問である。本講義では、心の3要素である「知・情・意」を理解した上で、そこから展開する人間の行動に関する専門分野をいくつか取り上げる。

担当教員	築田美抄
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1・2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

「心」に関する学問的知見を正しく理解し、「心」に対する専門的関心を高める。
心理学の学びを通して、人間の行動に対する理解と気づきの視点を養い、人間を取り巻くさまざまな現象を考察できる力を身につける。

各回の内容

1. 「心」とは何？
2. 「心」に関する学問の歴史
3. 感覚 五感とその不思議
4. 知覚 物事を認識する働き
5. 記憶 覚えるプロセスと性質
6. 学習 「できるようになること」「できなくなること」
7. 感情と情動 「気持ち」の種類
8. 動機づけ - 「やる気」のメカニズム
9. 心理学の専門分野 発達心理学
10. 心理学の専門分野 臨床心理学（性格）
11. 心理学の専門分野 臨床心理学（心のトラブル）
12. 心理学の専門分野 臨床心理学（心理療法）
13. 心理学の専門分野 臨床心理学（心理療法）
14. 心理学の専門分野 社会心理学
15. 現代社会における心理学的話題
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

都度、次回の講義に関して、下調べをしておく内容を指示する

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験 70%

毎回の感想文 30%

試験の解答および解説は掲示する。

教科書

使用しない

参考文献

都度、必要に応じて紹介する。

経済学

概要

経済学の基礎理論を習得し、社会で起こっている様々な出来事を理解するために活用できるよう講義を行う。

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1、2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

経済学の基礎理論を習得することにより、経済に関係する様々な出来事や政府の政策をより深く理解する力を身につける。

各回の内容

1. 経済学の主要概念・考え方
2. ミクロ経済学（1）
3. ミクロ経済学（2）
4. ミクロ経済学（3）
5. ミクロ経済学（4）
6. ミクロ経済学（5）
7. ミクロ経済学（6）
8. ミクロ経済学（7）
9. ケーススタディ（現実の出来事・政策を経済学で考える）（1）
10. マクロ経済学（1）
11. マクロ経済学（2）
12. マクロ経済学（3）
13. マクロ経済学（4）
14. マクロ経済学（5）
15. ケーススタディ（現実の出来事・政策を経済学で考える）（2）
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

各回の授業の最後に予習内容を示す。

授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、確認テストを4回実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験60%、 確認テスト40%、いずれも採点后に返却する

教科書

使用しない。

参考文献

必要に応じ、授業で紹介する。

法学

概要

法律は日本のルールであるため、社会人になるにあたって基本的法知識の習得は必須のものと言える。しかし、法律は量が膨大であるため、本講義では、社会に出ていく女性として必ず習得してほしい法知識（法律用語及び制度）を厳選し、講義する。他方で、法律の分野は限定せず、日常生活との関りが深い民事法を中心に、憲法、会社法、刑事法に至るまで幅広い範囲を講義対象とする。また、講義を聴くだけでなく、イメージしやすい事例を使い、グループディスカッションで議論することを通じて法的な思考方法を学び、問題意識や他人の意見を理解しつつ自分の意見を構築するプロセスも体験する。

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- ・社会に出て行く女性として知っておくべき法律知識（基本的な法律用語及び制度）を習得できる
- ・法律問題に直面したときに事実を正しく把握した上で、学んだ知識を使って妥当な結論を導き出す応用力を身につけることができる
- ・法律上の争点につき自分で考え、意見を構築することができる

各回の内容

1. 法と命
2. 日本の根本規範～憲法の世界～
3. 売買契約と契約上のトラブル
4. お年寄りを守る～成年後見制度～
5. 部屋を借りる時の法律～賃貸借契約～
6. 家を買う時の法律～抵当権～
7. 相手が契約を守ってくれない時の法律～契約解除と損害賠償～
8. 事故にあった時の法律～不法行為～
9. 保証人になる時の法律～保証・破産～
10. 結婚・離婚する時の法律
11. 親子に関する法律
12. 相続に関する法律
13. 会社とは～会社法の世界～
14. 犯罪とは～刑法の世界～
15. 刑事手続きと矯正～刑事訴訟法の世界～
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につき資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

筆記試験 40%、確認テスト 30%、講義への貢献度（グループディスカッション実施報告書）15%、リアクションペーパー 15%
 （確認テストの解答・解説は解答用紙回収後に実施する。試験の解答・解説は掲示する。）

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

法学（CE）

概要

法律は日本のルールであるため、社会人になるにあたって基本的法知識の習得は必須のものと言える。しかし、法律は量が膨大であるため、本講義では、社会に出ていく女性として必ず習得してほしい法知識（法律用語及び制度）を厳選し、講義する。他方で、法律の分野は限定せず、日常生活との関りが深い民事法を中心に、憲法、会社法、刑事法に至るまで幅広い範囲を講義対象とする。また、講義を聴くだけでなく、イメージしやすい事例を使い、グループディスカッションで議論することを通じて法的な思考方法を学び、問題意識や他人の意見を理解しつつ自分の意見を構築するプロセスも体験する。

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- ・社会に出て行く女性として知っておくべき法律知識（基本的な法律用語及び制度）を習得できる
- ・法律問題に直面したときに事実を正しく把握した上で、学んだ知識を使って妥当な結論を導き出す応用力を身につけることができる
- ・法律上の争点につき自分で考え、意見を構築することができる

各回の内容

1. 法と命
2. 日本の根本規範～憲法の世界～
3. 売買契約と契約上のトラブル
4. お年寄りを守る～成年後見制度～
5. 部屋を借りる時の法律～賃貸借契約～
6. 家を買う時の法律～抵当権～
7. 相手が契約を守ってくれない時の法律～契約解除と損害賠償～
8. 事故にあった時の法律～不法行為～
9. 保証人になる時の法律～保証・破産～
10. 結婚・離婚する時の法律
11. 親子に関する法律
12. 相続に関する法律
13. 会社とは～会社法の世界～
14. 犯罪とは～刑法の世界～
15. 刑事手続きと矯正～刑事訴訟法の世界～
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につき資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

筆記試験 40%、確認テスト 30%、講義への貢献度（グループディスカッション実施報告書）15%、リアクションペーパー 15%
 （確認テストの解答・解説は解答用紙回収後に実施する。試験の解答・解説は掲示する。）

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

日本国憲法

概要

憲法は私たちの国の基本となる法であると同時に、近年では、憲法改正等も議論されているため、深い理解が求められている。そこで、覚えてほしい基本的用語から、重要な条文や制度が、どのような意義や趣旨に基づくのか、という点に至るまで深く講義していく。

また、憲法上の問題については具体的事案につき検討する機会を設け、自分なりの答えを導き出すワーク等も実施する。更に、講義内容を現実の問題としてイメージできるように、関連する時事問題にもできるだけ触れていく。

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1,2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- ・日本国憲法の基本原則及び各制度とその趣旨を理解できるようになる
- ・憲法上の争点につき、何が問題となっており、どのような議論があり、どのような意見があるのかを理解し、自分なりの考えを持つことができる
- ・法的思考力を養い、新しい問題に直面した時に問題の所在を把握し、論理的に考えて妥当な結論を導くことが出来るようになる

各回の内容

1. 日本国憲法の基本原理
2. 基本的人権 享有主体性
3. 基本的人権 幸福追求権
4. 基本的人権 法の下での平等
5. 基本的人権 信教の自由と政教分離
6. 基本的人権 表現の自由
7. 基本的人権 経済的自由
8. 基本的人権 人身の自由
9. 基本的人権 社会権
10. 統治機構 国民主権と選挙
11. 統治機構 国会
12. 統治機構 内閣
13. 統治機構 内閣
14. 統治機構 裁判所
15. 平和主義
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につきテキスト・資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- ・筆記試験40%、確認テスト30%、グループワーク実施報告書15%、リアクションペーパー15%
(確認テストの解答・解説は解答用紙回収後に実施する。試験の解答・解説は掲示する。)

教科書

吉田仁美著『スタート憲法（第2版補訂版）』成文堂 2016年3月20日発行

参考文献

その都度、授業で紹介する

人間と教育 A

概要

教育とは何であろうか。これは社会情勢によって重要視されるべき点も異なっていく。それは教育の対象が、社会を編んでいる人間であるからだ。本授業では人間と教育の関係、現代における教育問題などを取り上げ、これからどのような教育が展望されるべきかを考えていく。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

人間が人間である最大の特徴は、広い意味での教育を通して成長、発達することにあるとの観点から、生涯学習社会における教育の営みについて、その本質から可能性まで理解ができる。

各回の内容

1. 教育とは何か(授業概要のガイダンス)
2. 教育の本質(何のための営みなのか)
3. 人間の発達課題(教育と学習)
4. 素質と環境(教育の原形)
5. 教育の歴史(西洋における教育)
6. 近代日本の形成と教育の目的～
7. 教育基本法改正の重点
8. 教育の内容、方法～原理と形態教育の成果、評価～
9. 測定と評価の観点
10. 生涯学習社会における教育
11. 家庭教育の現状と課題
12. 社会教育の現状と課題
13. 学校教育の現状と課題
14. 教育とは何か(総括1)
15. まとめ(総括2)
16. 論述テスト

準備学習(予習・復習等)

<予習>

教育に関連するニュースに関心を持つ。また現代教育問題の記事を探し、自らの意見をまとめておくこと。

<復習>

毎回その講義を受けた後に、その日にテーマになった内容についてを調べ、考察し、自らのコメントを書くこと。(次回の授業時に提出)

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

プレゼンテーション20%、授業後のフィードバックシートの内容20%、グループワークへの態度10%、論述テスト50%

教科書

なし

参考文献

汐見稔幸・伊藤毅・高田文子・東宏行・増田修治編『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。
森川輝紀『教養の教育学』三元社、2015年

人間と教育 B

概要

「教育」とは、「教え、育む」という意味にほかならないが、その働きかけの対象となるのは、主として人間の「心」である。なぜなら、「心」というものは、「知的能力」「感情、情動」「意志、欲求」の3つの要素から成り立っており、「心」の働きは、「人間そのもの」と言えるからである。そして、人は常に「教え」、「育み」「育まれる」という経験を重ねることにより、日々の営みを成り立たせているとも言える。そのため、本講義は、「人間を考える科目」であるとも言えるだろう。

担当教員	築田美抄
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科・食物栄養専攻
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

教育心理学で扱われている学術的知見を学ぶことによって専門知識を身につけると同時に、実際の、具体的に「人間」や「教育」について、自身の考えを深め、実践することができる力をつける。

発達や成長は、多角的に捉えられるものであることを知り、人間理解の視野を広げる。

人間の「個性」について、幅広く受け止めることができる価値観を養う。

各回の内容

1. 教育心理学の研究方法与基礎理論

2. 教育心理学の研究方法与基礎理論

3. 胎児期～乳幼児期の発達

4. 胎児期～乳幼児期の発達

5. 幼児期の発達

6. 幼児期の発達

7. トピックス「子どもの絵」

8. 児童期の発達

9. 児童期の発達

10. トピックス「発達のつまずき」

11. トピックス「いじめ」

12. 思春期とは

13. 青年期以降の発達

14. トピックス「Posttraumatic Growth」

15. トピックス「生涯発達」

16. 試験

準備学習（予習・復習等）

予習は特に必要としないが、授業毎に、当日の講義テーマに関して、復習する内容を指示する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験 50%

毎授業時における確認テスト、または小レポート 50%

試験の解答および解説は掲示する。

教科書

使用しない

参考文献

都度、必要に応じて紹介する。

人間と教育 B

概要

子どもの発達や学習の過程を保育と関連づけながら発達心理学、教育心理学を学ぶ。基本的な事項については、講義にて解説を行い、グループワークの演習を通じてより具体的に理解を深める。

担当教員	西内みなみ・山下敦子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90×15回
単位数	2

目標

1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。
2. 生活と遊びを通じて学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。
3. 保育における発達援助について学ぶ

各回の内容

1. 子ども理解における発達の把握
2. 個人差や発達過程に応じた保育
3. 身体感覚をとまなう多様な経験と環境との相互作用
4. 環境としての保育者と子どもの発達
5. 子ども相互のかかわりと関係づくり こどもCAPふくしま「子どもの基本的人権」ワークショップ
6. 子ども集団と保育の環境
7. 子どもの生活と遊び
8. 子どもの遊びと学び
9. 基本的生活習慣の獲得
10. 自己主張と自己抑制
11. 主体性の形成
12. 生涯にわたる生きる力の基礎を培う
13. 発達と学びの連続性と就学支援
14. 発達援助における協働
15. 現代社会における子どもの発達と保育の課題

準備学習（予習・復習等）

次回の講義の章を読み、わからない点などを明らかにしておく。また、講義後は、内容の復習を行い、さらに興味を持った点を調べる等、学習を深める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎時間の振り返りシート 60%
レポート課題 40%

教科書

清水益治 他編 保育の心理学 中央法規

参考文献

その都度授業で紹介する

英語

概要

文の構造や論理展開をとらえながら読むことを中心に編入試験に対応できる読解力をつけていく。また、英文和訳の演習に取り組むことで、総合的な読解力や記述力を養成する。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学部2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

読解力：精読活動を通して、文法的な知識を活用しながら正確に読解できる練習をしていく。

語彙力：語彙力を広げ、辞書を使わずに最後まで読み切ることができるように強化する。

記述力：過去問演習や英文和訳を通して、読み手を意識した論理的で自然な表現力と記述力を身に付ける

各回の内容

1. オリエンテーション/1年次の復習
2. andの接続について(基礎編)
3. andの接続について(応用編)
4. 強調構文(基礎編)
5. 強調構文(応用編)
6. 省略・挿入(基礎編)
7. 省略・挿入(応用編)
8. まとめ
9. asの識別(基礎編)
10. asの識別(応用編)
11. asの識別(発展編)
12. 総合問題演習
13. 総合問題演習
14. 総合問題演習
15. まとめ

準備学習(予習・復習等)

予習) 指定された英文や課題に目を通し、不明な箇所を予習の段階で明確にしておく。
文法や語彙などは積極的に調べ、弱点の補強に努めること。

復習) 授業時間で扱った重要項目について、まとめ直しをした後、類題に積極的に取り組むこと
小テストで間違ったところを再度重点的に見直しをすること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト：30%

まとめテスト：60%(2回)

授業への参加態度：10%

教科書

必要に応じて適宜配布をする

参考文献

必要に応じて適宜提示をする

英語

概要

編入学試験に向けて、演習と講義を行っていく。
 英文は、書かれている内容を読者によりわかりやすく伝えるため、いくつかの論理構造を用いていることが多い。その特有の論理構造と、文章の流れを学習することにより、より効率的に要点を押さえながら、本文の意図を的確に読み取っていく能力の涵養に努めていく。

担当教員	高橋未希
授業形態	授業・講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学科2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

読解力：メタ的視点から英文の構造を分析し、その展開パターンを用いて文章を読み取ることができるようになる。
 語彙力：編入学試験に必要であると思われる、様々な分野の用語・単語の習得に努める。
 記述力：問題作成者の意図を理解しながら、適切な表現ができる力を養っていく。

各回の内容

1. オリエンテーション/英語の論理展開について
2. 文のつながり(冠詞:代名詞)
3. 文のつながり(冠詞:代名詞)
4. ディスコース・マーカーについて
5. ディスコース・マーカー応用問題演習
6. ディスコースマーカー発展問題演習
7. 総合問題演習
8. まとめテスト
9. 予測・推測とディスコース・マーカー
10. パラグラフの展開について
11. パラグラフの展開について(応用問題演習)
12. パラグラフの展開について(発展問題演習)
13. パラグラフ同士のつながりを考える
14. パラグラフ同士のつながりを考える
15. 総合問題演習
16. まとめテスト

準備学習(予習・復習等)

- 予習) 提示された課題文を読み、意味がわからない点・読解に苦労する点を見つけ出しておくこと
 小テストに向けて対策を行うこと
 復習) 自主課題に積極的に取り組むこと
 授業で扱った重要事項の振り替えりおよび、小テストで間違った箇所の復習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- 小テスト(30%)
 まとめテスト(60%)
 授業態度(10%)

教科書

適宜プリントを配布していく

参考文献

授業でその都度提示していく

韓国語

概要

韓国語は日本語と語順が同じだけでなく文法構造も非常に似ており、日本語話者にとってもっとも学びやすい言語といえる。授業では韓国語の読み・書き・会話をバランスよく身につけられるよう指導していく。韓国語は日本語に比べて発音が難しいが、授業内でポイントを押さえながらわかりやすく解説する。また適宜映像教材なども用いながら隣国への理解を深める。

担当教員	伊藤俊介
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1,2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

ハングルの文字と発音をマスターする。
基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章が読み書きできる。
挨拶や自己紹介など基礎的な会話ができる。
基本単語300語程度を覚える。

各回の内容

1. オリエンテーション（韓国語を学ぶにあたり）
2. ハングルの構造と母音
3. 子音
4. バッチム
5. 叙述分「～です」
6. 否定文「～ではありません」
7. 存在詞「あります/います」「ありません/いません」
8. 注文「～をください」、数詞（1～3）
9. 動詞、数詞（4～6）
10. 動詞、数詞（7～10）
11. 日程と時間の表し方
12. 否定形「～しません」、数詞（百・千・万）
13. 形容詞、希望「～したい」
14. 形容詞、予定「～するつもりです」
15. まとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

毎回の授業内容をきちんと復習し、未消化な部分のないようにしておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

出席・授業態度：30%、課題の提出状況：10%、期末試験の成績：60%
試験の解答及び解説は掲示する。

教科書

崔柄珠著『おはよう韓国語1』朝日出版社

参考文献

授業内で適宜指示する。

中国語

概要

発音、文法、姓名の表現、判断、程度、行為、時間、所有、存在、経験などの表現。会話、ドリル、小テスト、生活習慣、食文化、考え方の違い。

担当教員	叶 根青
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

皆さんが楽しみながら、豊かな中国語の表現を身につけ、中国語でコミュニケーションする喜びを感じる。その言葉話す人々の歴史、文化、生活を知り、さらに新しい自己を発見し、人生の目標や友人と会う事と国際交流、理解、平和に役に立つのを願う。

各回の内容

1. 簡単なあいさつ、簡体字、声調（第1,2課） 毎回練習問題あり
2. 発音編（子音、母音）会話を練習（第3,4,5課）
3. 疑問文、反復疑問文、動詞、形容詞（第5,6,7課）
4. 名前を尋ねる、自己紹介、代名詞、疑問詞（第8,9課）
5. 会話文、副詞、量詞、動詞（第10,11課）
6. 家族の構成、疑問詞“几”、カレンダーの、、、（第12,13課）
7. 月、日、曜日、時間の言い方（第14,15課）
8. 小テスト
9. 疑問詞“怎么”“怎么”、文末の“了”、年齢を尋ねる、ちょっと・・・する（第16,17課）
10. 疑問詞“多少”、値段の言い方、数の数え方（第18課）
11. 介詞“給”、語気助詞“吧”、文末の“了”、目的語を2つとれる動詞（第19課）
12. 介詞“在”、“比”、語気助詞“的”（第20課）
13. 介詞“离”、“从”、時間の量の表し方（第21課）
14. “会”“能”、“可以”の助動詞（第22課）
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

授業内容の宿題プリントを出し、次の授業に提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

テスト90%、授業態度5%、宿題提出率5%

教科書

小川郁夫 著『初級中国語 教科書+ドリル』白帝社

参考文献

なし

キャリアデザイン

概要

進路（編入・就職）を考えるうえで、2年前期は極めて重要な時期である。いずれの進路を選択するにしても、基礎学力を高めることは特に必要である。編入・公務員・一般企業などの進路を見据え、各コースを選択し、自ら主体的に学ぶ。この授業は、キャリアデザイン に連携する。

担当教員	全教員
授業形態	講義・演習・実習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

自己の進路の方向に対し、着実な基礎学力を上げることができる。
自ら主体的に学習できる習慣を身につける。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 編入・公務員・一般企業等学力養成 1
3. 編入・公務員・一般企業等学力養成 2
4. 編入・公務員・一般企業等学力養成 3
5. 編入・公務員・一般企業等学力養成 4
6. 編入・公務員・一般企業等学力養成 5
7. 編入・公務員・一般企業等学力養成 6
8. 編入・公務員・一般企業等学力養成 7
9. 編入・公務員・一般企業等学力養成 8
10. 編入・公務員・一般企業等学力養成 9
11. 編入・公務員・一般企業等学力養成 1 0
12. 編入・公務員・一般企業等学力養成 1 1
13. 編入・公務員・一般企業等学力養成 1 2
14. 編入・公務員・一般企業等学力養成 1 3
15. 編入・公務員・一般企業等学力養成 1 4

準備学習（予習・復習等）

1年前期・後期の学習を振り返り、自己の強み・弱みを把握し、改善点を明らかにしておく。
コースごとに指示された事前・事後学習を行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の参加態度、講義・演習の進捗状況等、学習成果を各回5点×15回を100点換算し、その結果を踏まえて、総合的に判断し評価する。

教科書

必要に応じて資料を配布する。選択したコースによっては、テキスト購入を指示する場合がある。

参考文献

都度紹介する。

キャリアデザイン

概要

2年後期は、進路の決定時期である。各自の学びの度合いに応じて主体的学習を進める。また、資格試験の受験を目指すこともよい。

担当教員	全教員
授業形態	講義・演習・実習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

2年前期を振り返り、学習の強み・弱みを把握し、卒業後の進路を見据えた学習を継続できる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 学力養成 1
3. 学力養成 2
4. 学力養成 3
5. 学力養成 4
6. 学力養成 5
7. 学力養成 6
8. 学力養成 7
9. 学力養成 8
10. 学力養成 9
11. 学力養成 10
12. 学力養成 11
13. 学力養成 12
14. 学力養成 13
15. 学力養成 14

準備学習（予習・復習等）

2年前期の学習を振り返り、自己の強み・弱みを把握し、改善点を明らかにする。
選択したコースで指示された事前・事後学習を行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の参加態度、講義・演習の進捗状況等、学習成果を各回5点×15回を100点換算し、その結果を踏まえて、総合的に判断し評価する。

教科書

必要に応じて資料を配布する。ただし、選択したコースによっては、テキスト購入を指示する場合がある。

参考文献

都度紹介する。

情報演習

概要

実社会でのICTリーダー補佐ができるスキル獲得（P検定3級以上合格）を目指す。

高校等で、P検定3級以上取得者は単位認定できるので、合格証を担当教員へ提出すること。（コピーを提出）なお単位認定する場合は、履修登録が必要である。

さらに上のレベルを目指す学生は、担当教員へ相談する(授業内自習や支援有)。

担当教員	永瀬, 佐藤(理)
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

ICTツールを高度に活用でき、他者に指導できるICTリーダー補佐を目指し、企業内職務を遂行する上での応用的な知識、スキルを有することができる。

各回の内容

1. 企業が求めるICT人材像と目標設定
2. コンピュータ知識講義と演習
3. コンピュータ知識(利用面)講義と演習
4. ネットワーク(LAN)講義と演習
5. ネットワーク(インターネット)講義と演習
6. 情報モラルと情報セキュリティ講義と演習
7. 知識領域のまとめ
8. 文書作成技能 演習1
9. 文書作成技能 演習2
10. 表計算技能 演習1
11. 表計算技能 演習2
12. 総合演習1
13. 総合演習2
14. 総合演習3
15. まとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

予備学習：情報演習 と で、苦手な部分を整理してこくこと。

事前学習：該当部分のテキスト精読と事前演習

事後学習：学習部分の復習と課題の作成

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り20%、演習40%、総合演習40%

教科書

- ・『P検3級 公認テキスト（ICTプロフィシエンシー検定試験）』FOM出版
- ・本学作成資料

参考文献

情報演習 で使用したテキスト
他は、その都度授業で紹介する。

情報演習

概要

DTP検定 種 ビジネスDTPを受験可能なレベルまで到達する。
進路（保育士向け、栄養士向け、一般事務、サービス業など）に沿って、各業種・職種を想定して成果物を作成する。
検定受験希望者は、担当教員まで相談してください。

担当教員	永瀬
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

Wordを使ってクリスマスカードや、各種チラシの作成演習を通し、ビジネス現場で活用できるDTP作成スキル獲得し、レイアウトデザイン案の企画、品質の高いレイアウトを効率的に作成できる。

各回の内容

1. デザインのためのWord操作基礎
2. 画像の操作・配置
3. ページの基礎設定・配色・レイアウト
4. 文章配置の基礎
5. 画像の種類・出力時の注意点の理解
6. 文字・段落・特殊フォントの理解
7. グループ化・コピー・貼り付けによる効率的なレイアウト作成
8. 情報伝達の妨げとなる無駄の排除
9. メリハリをきかせた情報の区別
10. 紙面の有効活用と、まとまり感
11. 可読性を高める
12. イメージを高める工夫
13. 基本イメージとデザインの方向性の考察
14. 総合演習
15. まとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

- 「事前学習」情報演習 のWord部分の総復習。疑問点を整理しておく。
- 「事後学習」課題の作成、弱点部分の復習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り20%、演習50%、試験30%

教科書

なし：本学作成資料を都度配布する。

参考文献

- ・情報演習 使用のテキスト、配布資料、他はその都度授業で紹介する。
- なおCH向けとして「幼児と保育イラスト集」が、本学図書館にCDROMで揃っています。

体育講義

概要

担当教員	堺 秋彦
授業形態	講義
学期	前期集中
必修・選択の別	選択
対象学生	全1、2年
時間数	90分×7.5回(集中)
単位数	1

体育、運動生理学について講義をし、その後講義の内容に基づきクイズ形式で授業を進める。体育の「歴史、概念、意義、ねらい」や「人間の発達段階」、「体力の概念」を知り、運動と健康について考える。運動が心身の健康のためにどれだけ大切なのかを理解したうえで、自分自身の健康をはじめ将来母親になったときに、わが子の健康をも考えることができるようにする。また、最後にクイズで出した問題の中からテストする。授業は2日に分けた集中でおこなう。

目標

体育の歴史を通して、今日ある体育の意義を知り、何を指した教科なのかを理解することができる。また、人間の身体の構造や機能、体力の概念を理解し、運動が心身に与える効果を知り実践することができる。

各回の内容

1. 体育の歴史と定義
2. 体育の意義と内容
3. 現代における体育の課題
4. 人間の発達(スキヤモンの発育型)
5. 脳の働き 体力の概念 運動と健康 健康の定義
6. 生活習慣病について 運動の効果 生涯スポーツについて
7. テスト
8. まとめ

準備学習(予習・復習等)

- ・規則正しい生活習慣を心掛け、自分の身体を意識する。
- ・復習として、配布した参考資料並びに「身体」「発育発達」「運動」に関する内容を、本を読んだり、インターネットで調べ、「身体の特徴」と「運動」の関係性について理解を深める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題(クイズ)30%
テスト70%

教科書

なし。授業で資料を配布する。

参考文献

幼稚園教育要領、小学校教育指導要領、中学校教育指導要領(保健体育編)、高等学校教育指導要領(保健体育編)

体育実技

概要

「スポーツ遊び」を通じて、身体を動かす楽しさや心地よさを実感し自分の健康を意識することを目指し授業をおこなう。本授業は、技能向上を目指したのではなく「運動を楽しむ」ことを目指した授業であるので、運動が苦手な人、日頃運動不足な人を歓迎する。

担当教員	堺 秋彦
授業形態	実技
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物・キャリア1・2年生
時間数	15
単位数	1

目標

「スポーツ」は体育の教材であり、楽しくおこなうことが前提であることを理解したうえで、それぞれのスポーツや運動に含まれる「楽しさの要素」を感じ取りながら、からだを動かす楽しさと喜びを感じることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 基礎体力トレーニング・ゲーム1・スポーツ1
3. 基礎体力トレーニング・ゲーム2・スポーツ1
4. 基礎体力トレーニング・ゲーム3・スポーツ2
5. 基礎体力トレーニング・ゲーム4・スポーツ2
6. 基礎体力トレーニング・ゲーム5・スポーツ3
7. 基礎体力トレーニング・ゲーム6・スポーツ3
8. 基礎体力トレーニング・ゲーム7・スポーツ4
9. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(1班担当)
10. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(2班担当)
11. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(3班担当)
12. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(4班担当)
13. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(5班担当)
14. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(6班担当)
15. まとめ

準備学習(予習・復習等)

規則正しい生活習慣を心がけると共に、毎日30分以上の歩行を実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

運動量(各回の内容に基づいて、適切に身体を動かしているかを評価する)50%
記録表(心と体の記録表を適切に記述できているかを評価する)50%

教科書

なし。必要に応じて資料を配布する。

参考文献

その都度授業で紹介する。